

第1回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

日 時

平成18年8月4日（金） 午後2時00分～午後4時10分

会 場

宇都宮市上下水道局 5階大会議室

出席者

委 員：伊澤委員，石井委員，上野委員，臼井委員，大瀧委員，大竹委員，小山委員，
本田委員，松村委員，水島委員

市 側：上下水道局長，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，経営企画課経
営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，工事受付センター所長，
配水管理センター所長，水道建設課長，下水道建設課長，下水道施設管理課長，
技術監理室長，事務局職員

傍聴者数

0 名

会議経過

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 管理者あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 座長の互選について
委員の互選により，石井委員を座長に選出。
- 6 職務代理者の指名について
座長により，本田委員を職務代理者に指名。
- 7 会議の公開について
本懇話会を原則公開にすることを決定。
- 8 懇 話
 - (1) 宇都宮市上下水道事業のあらまし
 - (2) 平成18年度の経営状況と予算
 - (3) 経営基盤の強化に向けた取り組みの概要
事務局より，会議資料に基づき説明の後，意見交換。

A 委員：企業債についてだが，国債に比べ，利息の割引率はどうなっているのか。また，それは個人向けに小口購入できるようになっているのか。

事務局：企業債は借入金のことであり、借り入れについては、地方公営企業の場合は許可制となっており、主な借り入れ先は国、公営企業金融公庫である。

座長：地方債のような形で市民の皆さんに債権として購入してもらうという方法は良い。使っていただいている方々がオーナーでもあるという株式証券化という方法は非常に参考になる意見である。現在、政府系金融機関の統合という動きが内閣府の中で進んでおり、公営企業金融公庫の地方への移管ということが議論になってきている現状にある。その他、何か意見等があるか。

9 その他（報告）

経営戦略プラン

事務局より、会議資料に基づき説明の後、意見交換。

座長：本日は第1回目の会議でもあるので、自由な意見交換をしたい。

B委員：経営戦略プランの目標に対する成果について、チェック方法はどのように考えているのか。

事務局：水道ガイドラインに基づく数値目標を設け、進行管理し、継続的な見直しを行っていく。

座長：経営基盤の強化に向けた取り組みについて、第2次財政構造改革は18年度で終了予定だが、19年度以降はどうするのか。

事務局：上下水道ともに、これまでの取り組みを精査し、19年度以降の計画について当懇話会の意見等をいただきながら検討していく。

C委員：ベテラン職員が退職されているようであるが、現在は、どのくらいの職員で業務を行っているのか。また、将来的にこの職員体制で大丈夫なのか。

事務局：現在は、水道事業181名、下水道事業117名、合計298名。今後については、経営の効率化と技術の継承は重要な課題である。外部委託推進計画で経営の効率化を図るとともに、併せて研修等による技術の継承を行っていく。また、民間委託の部分については十分な管理指導ができる体制を整えていかなければならないと考えている。

D委員：水道管の漏水調査延長750キロメートルに対する、人員体制及び実施方法を教えて欲しい。また、有収率をあげるための具体的方法があれば教えて欲しい。また、先ほど観たビデオの活用方法をどう考えているのか。

事務局：市全体の埋設管の延長は約2700キロメートルあり、3年～4年間で全体を調査できるように進めている。実施箇所を選定については、漏水発生率の高いところを優先している。人員体制については、専門の業者に調査委託している。特定な場所等については職員が実施する場合もある。有収率向上には老朽管の敷設替が有効である。現在、老朽管の敷設替を積極的に進めている。また、水道管に過剰な圧力がかかると漏水量が増えるので、市内全域の水圧調整を行い配水管に過剰な圧力がかからないようにしている。

D委員：外部委託が進むと経営の効率化は図れるが、非効率であっても若い職員に対する現場での指導は、今後も是非続けてもらいたい。

事務局：技術の伝承は重要なことなので進めていきたい。

事務局：ビデオ活用については、職員が出向いて上下水道の仕組みを説明している『お届けセミナー』で活用している。さらに、関心のある人がいつでも観ることができるよう、視聴覚ライブラリー等に置くなど活用方法を検討していきたい。

座長：懇話会委員は最大の広報者という観点から、委員にこのビデオを配ってもらえると良い。

事務局：次回までに検討する。

E 委員：企業債について、現在の借換状況はどうなっているか。雨水対策について、今期の豪雨で内水氾濫について騒がれていたようだが、宇都宮では対策をとっているのか。また、雨水貯留施設設置費補助による設置状況について聞きたい。

事務局：企業債の借換については、公営企業金融公庫借入分のみ行っている。平成17年度は水道7億、下水道23億円が借換を行うことができた。今年度については水道3億、下水道18億、合計21億円の借換ができ、将来的な支払い利息が削減できたところである。引き続き、当制度が確保されるよう国に働きかけをしてまいりたいと考えている。

事務局：平成18年度4月から雨水貯留浸透施設費補助制度を市街化区域全域に拡大した。平成17年度の実績は7件の申し込みがあり、平成18年度は7月現在で24件の申し込みがある。

事務局：内水氾濫についてであるが、今年は、現在のところ宇都宮市においては大きな被害はない。

F 委員：料金体系の多様化ということだが、現時点でどのような考えで進んでいるのか。

事務局：現在は、さまざまな手法を考慮し、お客様の使い方に併せた料金設定を研究中である。今後、審議会等でご意見をいただきながら進めていくつもりである。

G 委員：下水道管が老朽化しているようだが現況はどうなっているのか。また、会計処理上、建設にかかる費用である減価償却費をあらかじめ積み立てて、更新工事の際には取り崩すのが良いのではないか。

事務局：宇都宮市の公共下水道は昭和32年から管渠の整備を行い、設置後まもなく50年を経過することから、市の中心部の下水道管渠調査を平成16年度から3ヵ年計画で現況調査・診断をしているところである。調査終了後の平成19年度には、整備計画を策定し、老朽度の高い管渠から整備に着手する予定である。平成17、18年度の診断結果によると、緊急に更新が必要なほどの老朽化は進んでいない。

事務局：減価償却費について、ライフラインである上下水道事業は設備投資による巨額の借入金があり、借入金の返済に充当しているところである。新たな設備投資をする場合には、借入金、財源、支出のバランスを図りながら効率的に実施してまいりたい。

座長：建設費等の引当金については現在、国でも検討している。

A 委員：経営戦略プランの中に技術力の向上とあるが、内部開発による技術力の向上を図るなら、その予算は建設改良費の中に含まれているのか。環境負荷低減技術の導入や危機管理の強化など、具体的にどのようなことをしていくのか。

座 長：その意見については、皆さんにわかりやすく説明してもらいたいので、次回会議時に詳しい資料を用意してもらいたい。

事務局：次回までに資料を用意する。

G 委員：水道料金の個別需給給水契約制度をとっている事業体もあるようだが、中核市の中で宇都宮市とは異なる料金の料金体系をとっている事業体はあるか。

事務局：個別需給給水契約を行っているのは岡山市である。契約者と水道事業体が個別に契約をする制度であり、各市、実情に合わせて検討されている。

座 長：岡山市は全国で始めて個別需給給水契約制度を取り入れた自治体である。

H 委員：次回でよいので、人などが服用した医薬品で、吸収されずに人体から排出された医薬品物質が下水処理でどれだけ除去されているのか、また、プール等で使用した水は河川に排出されていると思われるが、下水道使用料はどうなっているのか伺いたい。また、駐車場に設置している水道については、下水道使用料に換算しないなどの検討も必要ではないかについて、説明してほしい。

座 長：最後に事務局から連絡をお願いする。

事務局：次回の会議開催日については、10月下旬頃を考えているが、改めて各委員に連絡する。

10 閉 会